

時轍乾坤に

(大正四年寮歌)

沢田退蔵君 作歌・作曲

一

時轍乾坤に回り来て
陽春駘蕩のおぼろよひ
紫淡く霞罩め
自治の流れは永遠に
若葉の陰を浮べつつ
吾等が幸を祝ふらん

二

胡馬北風に嘶きて
越鳥南枝に巢を造る
世の濁江に逆へる
棹歌の声の勇ましき
三星霜の春のおきふしに
深き感慨のなからめや

三

紫扉を出でて霜を踏み
川流を掬ひ薪樵る
崇き希望の若人が
歎喜憂苦を共にせし
友悌凋まぬ松柏と
幾千代かけて変らざれ

四

彼の邯鄲の仮枕
栄華の夢も半にて
世の秋風に驚かん
目ざす真理の高殿は
遠く遙けし突進めいざ
心の駒に鞭打ちて

五

ウラルの彼方風淒く
陣雲くらき八街は
鉄騎百万駆りつつ
正義の光失する時
燃ゆる義憤を胸に秘め
起て自治寮の健男児

六

自由の旗を振り翳し
平和の楯を掻き列ね
吾等起つべき時は来ぬ
見よや獅子王一吼して
曠野虎狼の影もなし
祝へ今宵の記念祭